

家庭教育学級における「アウトカム評価」の試み

益川浩一（岐阜大学地域協学センター センター長・教授）

益川優子（愛知学泉大学現代マネジメント学部 准教授）

要約

アウトプット評価とは、事業の実施によって直接的に生じる結果の観点から、具体的には事業の実施回数、参加者数、利用者数等の観点から、当該事業を評価する方法である。一方、アウトカム評価は、事業の実施を通じた参加者や利用者の意識及びその後の行動等の変容、さらには地域住民や地域社会にもたらされた影響等を評価するものである。事業の本来の成果を評価するアウトカム評価は、これまで必要性が感じられながらも、各地域・自治体でなかなか手がつけられず、課題として先送りされてきたのが現状である。

本稿では、公民館事業における「アウトカム評価」を試みた X 県 Y 村 Z 公民館主催の「Z 保育園 家庭教育学級」の取り組みを紹介する。

キーワード：家庭教育学級、アウトカム評価、アウトプット評価、事業評価

1. 事業評価の現状

周知のとおり、アウトプット評価とは、事業の実施によって直接的に生じる結果であるアウトプットの観点から、具体的には事業の実施回数、参加者数、利用者数等の観点から、学級・講座であれば、その学級・講座の数や実施コマ数・受講者数の観点から、当該事業を評価する方法である。

一方、アウトカム評価は、事業の実施を通じた参加者や利用者の意識及びその後の行動等の変容、さらには地域住民や地域社会にもたらされた影響等、事業を実施する上で習得することが目標とされていた技能や知識等を人々が身につけることができたかどうか（人々の意識や行動の変容、学習成果に関する評価）、すなわち、事業実践を通じて人々の間に生じる変化（すなわち、アウトカム）を評価するものである。

事業の本来の成果を評価するアウトカム評価は、これまで必要性が感じられながらも、各地域・自治体でなかなか手がつけられず、課題として先送りされてきたのが現状である。評価に関わる情報収集や整理の難しさ、その作業の繁雑さや膨大な事務量、成果を数値で表しにくい事業の特性等がその原因と考えられる。本来の目標であるべき学習者の行動や意識の変容、地域の活動の変化に対して目が向けられていないのが現状である。

公民館における事業評価について言えば、例えば千葉県公民館連絡協議会は、『さらに充実した公民館事業をめざすための自己点検・評価に関する研究報告書』（2007年）を発行し、「事業の目的やねらいを明確に設定できたか」・「事業のねらいに対して学習プログラムは適切だったか」等の観点から、「高い」・「普通」・「低

い」の3段階で事業を評価する方法を提案しているが、本評価方法においても、事業の実施を通じた参加者や利用者の意識及びその後の行動等の変容を見るアウトカム評価にはなりえていない。

2. 家庭教育学級におけるアウトカム評価の試み

以下、公民館事業におけるアウトカム評価を試みた X 県 Y 村 Z 公民館主催の「Z 保育園 家庭教育学級」における取り組みを紹介する¹⁾。

本学級は、「学びを实践へつなげる」ことを目標とした、公民館・教育委員会・保育園・保護者（保育園父母の会）の連携・協働による家庭教育学級の取り組みである。保護者（保育園父母の会）が企画・運営の中心を担い、公民館職員が側面的な指導・助言を行うこととされた。家庭教育学級は、保護者同士が情報交換をしながら子育てについて学び合い、家庭における教育力を高めることを目指す学習活動であり、その真の成果は、アウトプットで評価することはできず、アウトカムによってなされるべきものである。

本学級では、年間を通じた学習テーマが設けられている。2015年度の学習テーマは「子どもを上手に褒めよう！叱ろう！～築こう親子の信頼関係～」である。学級の初回に「上手な褒め方叱り方」について講義を聴き、そこで学んだ「子どもの褒め方ポイント」が参加者の家庭及び日常生活における実践目標として措定され、学級活動が進められた。「今日学んだことを家でやってみよう。家に持って帰ってやることは何か。」といった具体的かつ日常に活かされる実践目標が明示された。

毎回、活動の初めに、学級長(父母の会会長)が、学習テーマと初回の学習会で学んだ「褒めるポイント」を確認し、活動の後に、学習内容の振り返りの時間が設けられた。1年間を通して繰り返し学習テーマや毎回の学習内容を確認し合うことで、学級生が学んだことを確かなものとする、及び、家庭や日常生活において学んだ成果を実践に結びつけることが目指された。

(1) 事業名

「Z 保育園 家庭教育学級」

～学びを実践へつなげる取り組み～

(2) 事業目的・目標

子育てに関する学習会や体験活動を通して、日常の家庭教育に生かせる情報や知識を学び、家庭や日常生活における「実践」へとつなげる。

(3) 事業内容

- ・企画運営者：保育園父母の会役員(3名)
助言：公民館職員、社会教育主事
- ・学習者(参加者)：Z 保育園保護者16名、園児18名、内容によっては保育士も参加する。

・学習プログラム

第1回：「子どもの上手な褒め方叱り方」(講義及び演習)

第2回：お話隊キャラバンカー「親子で絵本を楽しもう」(保育園行事として実施)

第3回：歯科衛生士・給食栄養士による「歯磨き教室」「給食試食会」

第4回：消防署「緊急時対応処置講座」

第5回：「親子運動教室」

第6回：「親子料理教室」

・学級の取り組み方

年間を通じた学習テーマを設け、一つのテーマに沿った企画運営を行っていく。各回の活動や学習内容が違っていても、学習テーマで各回の学習内容の整合性がとられているため、1年間を通して学習テーマについて繰り返し確認や振り返りをし、家庭や日常生活における実践へと結びつける場とすることができる。学級生が学んだことを確かなものにし、実践へとつなげていけることが期待できる。

2015年度の学習テーマは「子どもを上手に褒めよう！叱ろう！～築こう親子の信頼関係～」である。初回の学級で「上手な褒め方叱り方」について講義を聴き、そこで学んだ「子どもの褒め方ポイント」を1年間の実践目標とし、学んだ成果を家庭や日常生活の中で実践する。

また、各回の学級の講師と担当者の事前打ち合わせを綿密に行った。

- ・実践目標

①何でもかんでも褒めるのではなく、子ども自身が「やった～！」と思ったときに「やったね」「さすがだね」と褒めよう。(褒めるタイミングを逃さない)

②褒めるためには、いつもの3倍、子どもを見よう。(小さな成長も見逃さない)

※学級を欠席した人も学べるよう、学習内容を振り返ることができる「通信」を、公民館職員が毎回発行する。

(4) 評価

・評価の観点

①日常生活に生かせる学習内容であったか【内容の評価】。

②学級活動の中で子どもを褒めることができたか

【テーマに関わる評価】。

③学級に参加して生活に変化があったか【実践につながる評価】。

・評価方法

○受講者に対する事後アンケート(毎回アンケート及び最終アンケート)

・「毎回アンケート」では、評価の観点①と②で振り返る。但し、観点②は親子活動のときのみ評価する。

・「最終アンケート」は学級の最終回に実施し、評価の観点③で振り返る。

・回収率をあげるために、学級の時間内で簡単に記入できるアンケートにする。

・とても当てはまる(◎)、当てはまる(○)、あまり当てはまらない(△)の3件法及び自由記述(受講して感じたこと等)にもとづいて評価を行う。

○保育士への聞き取り調査

・実践にかかわる子ども等の変化や成長について、公民館職員が保育士から聞き取る。

(5) 事後アンケートの結果

表1：評価の観点①に関わる自由記述欄

(太字・下線→学習者の気づき、家庭や日常生活での実践への意欲)

第1回 参加者・参加率：11名・69% 回答率：82%・9名
【評価の観点①内容の評価 ◎89% ○11% △0%】

- ・今回の講習会は、予想していたものとは全く違い、心の中にズズン入ってくるようなお話でした。
- ・叱り方のポイントを聞いて、今すぐにも実践しようと思いました。
- ・今度は父親対象の講習会を開いて欲しいです。
- ・叱る時は手短かにするアドバイスを大切に、家で実行しようと思います。
- ・もっと先生のお話を聞きたかったです。お父さんにも聞かせたかったです。
- ・今日のお話は、すぐに家で生かせそうな内容はかりでした。
- ・先生のお話を聞いて、自分の家庭のことを考えさせられました。
- ・今回のテーマは、とても聞いてみたい内容だったし、ちょうど子どものことで悩んでいることだったので参加できて本当に良かったです。
- ・時間がとても短く感じました。もう少しゆっくりと聞きたかったです。

<ul style="list-style-type: none"> いろいろな年齢の子どもを対象としたお話だともっと良かったです。 じょうずに褒める方法をもう少したくさん聞きたかったです。
<p>第2回 参加者・参加率：13名・81% 回答率：85%・11名 【評価の観点①内容の評価 ◎55% ○27% △18%】</p> <ul style="list-style-type: none"> ととても楽しかったです。子どももキラキラの目で絵本を楽しんでいました。 なかなか家ではゆっくり読めないのが良かったです。 子どもの目がいきいきして、絵本の種類もたくさんあり楽しかったです。 絵本を読むだけの時間をとることは家では難しいのが良かったです。 読み聞かせの「読むスピード」や「語りかける読み方」など勉強になりました。 本を読み聞かせる大切さを勉強できました。保育園にある本を借りて、これからもたくさん本に出会わせてあげようと思います。 仕掛け本は高額で買えないので、見ることができ良かったです。 最近、子どもが自分で読むことが多かったです。やっぱり読んであげてを意識して一緒に楽しもうと思います。 家でも曜日を決めるなどして、本を読んであげようと思います。 読み聞かせの読み方が分かりにくく残念でした。
<p>第3回 参加者・参加率：11名・69% 回答率：91%・10名 【評価の観点①内容の評価 ◎80% ○20% △0%】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕上げ磨きの参考になりました。子どもへの虫歯の話は、これから家でも話していきたいです。 染め出しは汚れがよく分かり、これからの歯磨きに役立ちます。 今日習った磨き方を家でもやらせます。 うちの子のどこが磨きにくい歯なのか分かり良かったです。 家での食事で「早く食べなさい」を「よく噛みなさい」に言葉を換えていきます。
<p>第4回 参加者・参加率：13名・81% 回答率：100%・13名 【評価の観点①内容の評価 ◎77% ○23% △0%】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までの学習会とは違い、地震についての話が聞いて良かったです。 地震体験車で体験でき良かったと思いました。家での対策を考えなければと思いました。 救急車を呼ぶタイミングなど、普段の様子と違うことに気づくためには、日頃家族のことをよく見ていなければいけないと思いました。 子どもが何かあってもパニックにならないよう落ち着いて対応するためにも、今日のような学習会は大切でした。 心肺蘇生法は、何度やっても忘れることがあるので、このように毎年受けることが大切です。
<p>第5回 参加者・参加率：11名・69% 回答率：100%・11名 【評価の観点①内容の評価 ◎91% ○9% △0%】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことは楽しく、子どもだけでなく大人も楽しめた。 家庭でもこのように親子で体を動かしたいです。 いっぱいふれあうことができる楽しい時間でした。またこのような時間をもちたいです。 家でもお父さんと一緒にやりたいです。 体も心もリセットされた感じで、子どもと笑いながら楽しく運動ができました。 子どものぐずりを笑に変えるというアドバイスは、ぜひ実践したいです。 とても有意義な時間でした。内容は、すぐに家でもできることばかりで帰ったら早速やりたいです。
<p>第6回 参加者・参加率：12名・75% 回答率：92%・11名 【評価の観点①内容の評価 ◎91% ○9% △0%】</p> <ul style="list-style-type: none"> おにぎり作りがとっても楽しかったです。子どもも自分ででき良かったです。 いつもは「ママと一緒に」と言うのに、今日は「自分でやる」と1人で包丁にチャレンジしていました。家ではあまり一緒に料理をしません、今日の笑顔を見たら、もっと一緒に作る時間をつくろうと思いました。 ついつい「料理は大きくなってから」と自分の楽のために言ってしまうがちですが、今日の姿を思い出して、親子で料理をします。 包丁を使わせることが、背筋が凍るほど怖かったです。でも、野菜をぎゅっとなつかんで、一生懸命に切る姿を見て感心しました。マヨネーズ作りも楽しくでき、普段食べない野菜をパクパク食べていました。家でも作ってみたいです。

表2：評価の観点②に関わる自由記述欄
(太字・下線→学級活動において学習者が実践した姿)

<p>第5回 参加者・参加率：11名・69% 回答率：100%・11名 【評価の観点②テーマに関わる評価 ◎91% ○9% △0%】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意識して褒めることができました。でも、運動に集中しすぎて忘れることもありました。 自然に子どもを褒めることができ、ニコニコでとてもうれしそうでした。 「すごいね」と褒めることができ、子どもも喜んでいました。 素直な気持ちで子どもの成長を感じられました。たくさんの褒め言葉が出て、家でも実践したいと思いました。 毎日見ている様で見ていない部分を見つけることができ、褒めることができました。 上手な褒め方のおさらいも出来て、改めて子どもをよく見ることを大切にしていこうと思いました。 今日は、がんばる姿がたくさん見られました。お互いに褒め合うことができました。
<p>第6回 参加者・参加率：12名・75% 回答率：92%・11名 【評価の観点②テーマに関わる評価 ◎91% ○9% △0%】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が思っていた以上に包丁を上手に使い「すごい！上手！」と言うと嬉しそうでした。 自分でやってみたいという気持ちが強くなってきているので、自分で何でもやらせてみました。出来たときに、子どもの喜ぶタイミングにぴったりあわせて褒めると、とってもいい笑顔でした。このテーマで取り組んできて良かったなあ実感しました。 マヨネーズを一生懸命に作っている姿に「すごい！上手！」と言うと、益々笑顔でがんばっていました。 たくさん良いところを見つけることができた会でした。 確かに！3倍以上見ることができました。包丁のときに、がんばる姿がたくさん見られ、たくさん褒めました。 普段料理をするときは、私が文句を言ったりダメダメばかり言ったりしていますが、今日は心に余裕を持って子どもと一緒に取り組み、たくさん褒め合うことができました。 「おいしいおにぎりをありがとう」と言うとニコニコしていました。 〇〇ちゃんの作ってくれたおにぎりすごいおいしいよ、ありがとう、と伝えると、とても喜んでいました。 特に気にしてがんばる姿を見つけようと思い、子どもと接することができました。 子どもが2人いるとバタバタして、あまり見てあげることができず褒められませんでした。

表3：評価の観点③に関わるアンケート結果

第1回の講義（お話）を聞いて（通信で読んで）、子育てのアドバイスになりましたか？	◎73% ○27% △0%
第1回の講義（お話）は、生活の中で生かされていますか？（褒め方・叱り方など）	◎27% ○73% △0%
以前よりも子どもを褒めることが多くなりましたか？	◎45% ○45% △10%

表4：評価の観点③に関わる自由記述欄
(太字・下線→学習者の前向きな姿、家庭や日常生活で実践する姿)

<ul style="list-style-type: none"> 先生のお話を聞いたあと、家でさっそく実践しました。先生が言われる通りに言い方を変えて子どもに話しかけると、私の気持ちにも余裕ができ、子どももすぐ「できる！」と言い、ゆっくりですが出来るようになりました。今回学んだことを忘れず、焦らず少しずつ変わっていきたいです。 先生に教えてもらったことをやってみましたが、子どもの反応はあまりよくありませんでした。また、ダメな叱り方の繰り返し。でも、先生のお話を聞いてからは、あきらかにダメな叱り方の回数は減っています。これからは子どもと一緒に成長していこうと思います。 あいざつがしっかり言えたときには、褒めるようになりました。 嬉しいことをしてくれたときに、「嬉しい」「助かる」「ありがとう」と伝えるようになりました。 なぜいけないのか、理由を説明し本人が納得するまで諦めずに話し合うようにしています。

- ・子どもを褒めようという気持ちで過ごせることが多くなり、このテーマで取り組んで良かったなあと感じています。
- ・叱ることは見つかったも、褒めることが見つからなかったのが、小さなことでも褒められるようになってきました。
- ・悪いところよりも良いところに目を向けるようになり、自分のストレスも少なくなってきました。
- ・今までは、早く～！と言って急かしていましたが、「やってみて」と声をかけ、出来たときに褒めるように少しずつですが実行できています。
- ・夫婦でたくさん褒めています。言葉の使い方、注意の仕方、褒め方も工夫してがんばりたいです。
- ・まだまだ怒ってはばかりですが、褒めることも意識して子どもの良い姿を見ることを意識するようになりました。
- ・おもちゃを片付ける時、「お母さん助かる」と言う言葉にしたことで、喜んでやってくれます。
- ・前は叱る時にクドクドと言っていましたが、手短かに叱ることを意識しています。最近では、怒られたあとはケロッとして後を引かずに遊んでいるので、私も子どもも多少変わったかなと思います。子どもの行動を見て、すごく上手だね～と褒めたりしています。
- ・一日のうちに叱る回数よりも褒める回数を増やそうと努力していますが、なかなかうまくいきません。
- ・親目線ではなく、なるべく子どもの目線に立って生活しようとがんばっています。
- ・ただ叱るだけにならないように言い方を変えました。
- ・時間が過ぎると忘れてしまうので、家庭教育学級のたびに思い出すことができ良かったです。
- ・頭では分かっているけど、どうしても自分の感情に負けてしまい実践出来ません。あとで自分の態度を反省しています。

(6) 保育士への聞き取り調査

実践にかかわる子ども等（園児 18 名、保護者 16 名）の変化や成長について、公民館職員が保育士（5 名）から聞き取りを行った。聞き取りに対する回答は、(ア) 家庭教育学級の雰囲気に関する感想（回答数 11）、(イ) 子どもの変容に関する気づき（回答数 8）、(ウ) 保護者の変容に関する気づき（回答数 9）の 3 つのカテゴリに類型化することができた。なお、聞き取りを行った全ての保育士が複数のカテゴリに当てはまる回答をしたので、5 名の保育士から 28 の回答総数が得られた。

(ア) の例：学級では、みんな親子で楽しく活動に取り組んでいた。

(イ) の例：以前まで自分に自信がもてず消極的な子どもだったが、最近自分から進んで活動する姿が増えた。

(ウ) の例：お迎えの際に、いつも怒っていた S 子の保護者が、先ずは子どもの話を聞いて褒める姿が見られるようになった。

3. アウトカム評価結果の分析

(1) 学習内容について

学習者は、学習内容について、概ね満足していた。父母の会（学習者）が中心となって学習内容の組み立てを行ったため、学習者（当事者）自らが学びたいとする題材が選定されていたことが大きな要因であると考えられる。父母の会の企画ではなく、保育園行事の一つとして行われたお話隊キャラバンカーの内容評価がやや低かったことから、そのことは窺える。

(2) テーマに関わる取り組みについて

学級（親子活動）の中で、年間を通じたテーマに沿った取り組み（実践）ができていた。各回の活動の前に、学級長（父母の会会長）が、年間を通じた学習テーマと初回の学習会で学んだ褒めるポイント（学んだこと）を確認し、毎回の活動の後に振り返りの時間を設けていたことが大きな要因と考えられる。保育園行事の一つとして実施されたため、活動前にテーマの確認を行わなかったお話隊キャラバンカーの活動における観点②の評価が低かったことから、そのことは窺える。また、各回の学級の講師との事前打ち合わせを綿密に行ったことも要因の一つと考えられる。事前に学習テーマの意図を講師に伝えておいたことで、各回の中で、講師がテーマである「褒めるポイント」を、より強調してお話してくれる場面が見られた。

また、1 年間を通じた学習テーマに沿って取り組む方法は、効果的であった。評価の観点③における記述欄にもあるように、学級の各回に学習の年間テーマを思い出すことができるようにした学級の進め方が良かったと考えられる。また、評価の観点②に関わる記述欄に、「この学習テーマで取り組んで良かった」という記述があるとおりの、保護者のニーズに合ったテーマを設定できたことも要因の一つと考えられる。

(3) 学びを家庭や日常生活における

実践へとつなげること

多くの学級生が、学んだことを家庭や日常生活で実践することができていた。年間に渡り学習テーマを繰り返し確認できたことが、大きな要因と考えられる。保護者の間では、学級と学級の間の家庭での取り組み（実践）を交流し合う姿も見られ、学級を重ねるごとに実践が積み上げられているように感じられた。

(4) 「アウトカム評価」の意義

本事業における「アウトカム」は、「学級（親子活動）の中で、年間を通じたテーマに沿った取り組み（実践）ができた」・「学びを家庭や日常生活における実践へとつなげることができた」点である。受講者数といった事業の「アウトプット」について注視しつつも、事業実践が全体としてどのような「成長・発達」の実現過程であったのか、すなわち「アウトカム」を究明することが必要である。公民館事業が実際に「教育」としての意味をもちうるかどうかは、学習の指導としての教育実践がどのようになされ、それがどんな「成長・発達」をもたらしたのかによってのみ判断しうることである。この意味での「成長・発達」の形成過程の究明として「評価」を行うのでなければ、受講者数等事業に関わる数値、すなわち「アウトプット」を記述していても、それは、「評価」としての意味を充分にはもたないと言える。

〈注〉

1) 以下、X 県 Y 村 Z 公民館主催の「Z 保育園 家庭教育学級」に関する各種資料に基づく。